

2016年9月12日 千葉大学アカデミック・リンク・センター  
千葉大学アカデミック・リンク・セミナー/ALPS セミナー  
「学生相談から見た学修支援 ―窓口として/目的として―」  
参加者アンケート集計結果

当日参加者数： 61名（アカデミック・リンク・センター・附属図書館関係者を除く）アンケート提出数：45件

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、教育関係共同利用拠点として、「教育・学修支援専門職」の養成のために必要な研修プログラムの構築・運営の準備に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のセミナーに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。なお、記載いただいたご意見・ご感想は、個人名・組織名が特定できないかたちで公開する場合があります。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・学生相談内容に学修関係がとても多いことに驚きました。その場合、学部や教員との連携はおっしゃる通り必要なことなのだと思います。
- ・大学生の悩みの状況の詳細
- ・「学生相談」と「学修支援」を混同して考えていたが、それぞれの担当と協力し、一人の学生を教育していかねばならないと学びました。
- ・学生に自分のキャンパスを好きになってもらうことが重要だと改めて感じさせられました。部局間での協働(事務の窓口と学生相談室など)が機能すれば、強いセーフティネットになると思うので、本学でもできることを考えたいと思いました。
- ・学修支援の理論
- ・日々、学部の窓口にて学生さんと接する機会がありますが、窓口によく来る学生でさえも変化や修学状況をよみとるのは難しいです。事務ですと、システム上紙面上の結果や数字で大半の学生と接し、後で単位をおとっていた、留学生は在留期限がすぎている等大きなことになることもありました。そうなる前に、改めて自分のポジションから学生支援の方法を学ぶことができました。
- ・時代が変わることで学習支援方法が変わっていくということ。
- ・不本意入学学生の意識をどう変えていくのか。
- ・アカデミック・リンクの位置
- ・「学修支援士」という資格
- ・どの大学においても不本意入学をしている学生はいる。卒業するまでに「この大学に入れてよかった」と学生に満足してもらえるように努力している職員が他大学にもたくさんいらっしゃるということ。
- ・配布資料Ⅱ-2「学生生活サイクル」(先生がホワイトボードに書かれた申団子モデル)別紙資料A～F
- ・大学が組織的に学修支援の体制をつくるその実践について、よくわかりました。
- ・自分の担当分野からだけではなく、全方位的な学生支援、学修支援を考える上で大変参考になりました。
- ・学生支援の必要性/重要性が社会的にまだ認知されていないということ。このこと自体、日本の教育(高等)の“ラグ”と考えられ、適応方法論がより必要と発見できた。
- ・学生相談と学修支援は切ってもきれないものであり、ネットワークをつくりながら解決に向かう重要性を学びました。
- ・学生相談の場で、学修支援(実際の勉強に対して)が、ここまで重きをおいて意識されているのが、よく考えればあたりまえなのですが、新鮮な驚きでした。日常生活への適応相談がもっとメインだと思っていました。
- ・新たな発見となった。
- ・学生相談の窓口や方法は、複数あるのが良いと理解できた。
- ・学修支援について、各大学共通の問題と個々の大学固有の問題があるという事がよくわかりました。

次ページに続く

- ・自身の所属する大学についてよく知ることが大事であることがわかった。
- ・学内の各部署との連携が必要であることがわかった。
- ・日米の学生サポート・システムのあり方の違い（串団子モデル）
- ・「このような成長プロセスが望ましい」（→串団子モデル）という表現が斬新でわかりやすかった。
- ・学生支援の3階層モデルはよく整理されていてわかりやすかった。
- ・学生支援士という資格があることを初めて知り、大変興味を持ちました。
- ・東工大を中心とした学修支援のとりくみ、事例を発表いただき、自校でも応用できそうなものがありました。
- ・学生支援についての公式な歴史。（全く勉強したことがなかったものですから）
- ・学内一丸となつてのとりくみや信頼関係が大事ということ。
- ・学部付けの「学習相談室」は千葉大学の中でも設置されるといいなと思います。
- ・日米サポートシステムの違いが印象的でした。
- ・成績ががんばしくない学生の指導に苦勞しているので、学修支援の考え方について参考になりました。
- ・学生支援・学生相談の歴史を学べたこと。
- ・3階層モデルと様々な学生支援機能を学べたこと。
- ・今日の発見キーワードは模索期・模索でした。学生相談室の事務職員です。相談に来る学生さんは模索している模索期なのですね。先生がおっしゃっていたようにスモールステップで模索をして成長していってくれることを願うとともに、相談にこられないとか困ったことを話せないとか模索に沈没してしまうという学生さんを心配して案じています。“適度なおせっかい”これいいですね！質問された方図書館カウンターのような方もぜひ連携したいですね。協働していきます。ありがとうございました。
- ・学生相談に関わる事務職員の重要性を感じることができました。
- ・学生相談と学修支援の関係
- ・「学生相談室」は、学生の心によりそってくれるということがわかりました。気軽に相談しに行って良い所だということを学生時代に知りたかったです。
- ・学生相談の必要性と学修支援の関係性について学べた。
- ・学習・発達障害の学生についての質疑応答は役立った。
- ・学生支援のニーズ・必要性が分かった。
- ・学修の“修”がよくわかりました。（修学と学修は同義？）
- ・あたり前のことだが、ホームグラウンド と考えてくれること、というのは重要な言葉であると思いました。
- ・学生相談と修学支援を別個にとらえたことがなかったため、改めてそれぞれの連関、連働が不可欠なのだとなりました。またこれらが構造的に離れてしまいがちなのだとも感じました。
- ・学生相談のしくみが分かりました。また学部による違いもなんとなく分かりました。ありがとうございました。
- ・学生相談について

## 2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・本当にきてほしい学生への伝えが、成績不振な学生へのDMのみ、というのが施策として足りないなと思いました。
- ・学生相談モデルの説明

次ページに続く

- ・とても丁寧にくわしくご説明いただきましたので、特にございませんでした。
- ・支援の実践、日本人のみならず、留学生についての質問にもあったが、本当に支援が必要な学生ほど相談してこない。
- ・非常勤職員でも「学生支援士」の資格取得は可能でしょうか？
- ・大学が大規模であったり、学修支援の専門家が教員でなく職員の場合、学内の発言力がないので困っています。この場合どうすることができるのかを知りたいです。
- ・成果とその評価をどう考えるか。より具体・実践的な実例をききたかった。
- ・体系化された考え方として、話はよくわかった。
- ・大学の特性に伴う学生相談の具体的な対策についてももう少し詳しく知りたかった。
- ・守秘義務を承知で、発達障害学生等の情報提供が、現場にほしいと時折思ってしまう。事前に・・・というのはやっぱり難しいだろうと思いつつ、もしいただいてもそれをどこまで広げるか。(カウンター担当はパートさんを含めてたくさんいるので、難しいと感じています。) →質問させていただきました
- ・スパイラルアップの大学の期間に応じた支援ではなく、期間問わず、一事務職員として心掛けること。
- ・内容が豊富すぎて(レジュメの方)全体の仕組みはつかめませんでした。
- ・図書館による学生サポートは、学修支援、あるいは学修環境の提供だけでよいのか？
- ・適応支援教育(導入教育)の重要性はよくわかったのですが、より具体的な内容やケーススタディなどの紹介がもっとあれば良かったと思います。
- ・現場で参考になるかは、別の問題だと思った。
- ・学生相談と学修支援の間を担当する方の継続性はどうしたらよいか。
- ・学生担任として学生相談へ行くように学生へ指導するタイミング等
- ・大学の外、大学の周辺自治体や企業として学生にどのような支援が可能か知りたかった。
- ・わからないことは特になかった。

### 3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- ・個人的に私の立場では、バイアスやステレオタイプにならず、それぞれの立場や気持ちにそって行うのが大事だと思います。
- ・個人の蓄積を共有していく方法
- ・カウンセリング力を身に着けること。
- ・様々な立場での視点をもつこと(経営者、教員、学生、他部署職員の視点)
- ・所属大学が提供している教育内容を学生の立場で取り組み、深く学びたくなる研究したくなるような環境づくりを常に心がけること。
- ・「学生のための大学という意識」「学生の成長を近くで見ることのよろこび」などを教育機関に勤める人間としての基本 とする人でないと、支援には向いていないかなと思うことが多々あります。
- ・人に対して無下に扱うのではなく、悩みに迫る。
- ・学修支援は、守秘義務の関係上、情報が特定の人々に集まりがちですが、なるべく多くの教職員で問題点を共有し、解決できる環境を作る必要があると思います。
- ・教育・学修支援においては、大学院の課程を修めた職員、図書館員が対応する方がよいだろうと思う。
- ・まさに学生一人一人の顔が見える、マクロレベルでの支援体制が重要だと思います。
- ・相談に来た学生のかかえる問題点の把握が難しい。
- ・“聞く力”が大切かな、と思います。

次ページに続く

- ・学務・教務に関わる知識をベースにとり、自身の体験談等もふまえて学生を導く役割を担うことが必要だと感じた。
- ・他人の意見をすぐに否定する人、話を聞かない人、とにかく自分がしゃべり続けたい、という人には向かないかなと思います。
- ・気力・学力・体力
- ・傾聴、好意的関心による対応を行いつつ、教育的立場に立った対応を行うことが重要と考える。保健管理センター（カウンセリング）ピア・サポートルーム（学生による学生相談）アクセシビリティセンター（障害学生を含めた修学支援）
- ・元高校の養護教諭です。学生は「失恋」「進路相談」「病気を疑うもの」まで、さまざまな理由で研究室をおとずれます。来ると大体泣きます！必要に応じて学生相談の活用を勧めるわけですが、すぐに対応していただけるわけではありません。高校の場合は自宅に帰ると保護者の方がいるので安心ですが、大学生は一人暮らしの場合が多く、リファーできるまでひやひやします。危機介入してくれるところがあるといいなあとおもいます。（資質、能力ではないのですが。）

#### 4. 本日のセミナーの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・モデルケースなどがあり、現代の大学生が抱えている悩みについての対応方法を学ぶことができた。すてきな講演でした。
- ・まったくの無知な状態から参りましたが、これからの業務で行える基本が学べました。ありがとうございました。
- ・地方の小さな大学の一職員として、本学を選んで入学してくれている学生や保護者の皆さまにすこしでも還元できるよう実務研修を継続していく必要があるとあらためて感じました。「特別支援教育」を看板にしている大学であるので、全国的に知名度を高めていけるよう積極的に働いていきたいと思えます。
- ・新しく知ることが多く、とてもためになる機会をいただきました。ありがとうございました。
- ・非常に実践的で今後業務を行う上で心がけることが分かった気がした。
- ・「学生支援士」資格プログラムに大変興味を持ちました。
- ・具体的な例をまじえての説明でとてもわかりやすく、勉強になりました。
- ・とても勉強になりましてありがとうございました。
- ・私の所属は高等教育機関のはしくれ、学生数 800 名程度の高専です。もちろん学生相談室やカウンセラー担当や担当教員による様々な支援が継続されていますが、図書館という特殊な空間が学生の「退避エリア」であり司書の対応にもそれなりのスキルが必要と感じています。法人の職員の中で、保健室と非常勤司書だけが期限なしの雇用です。教員からも「ずっと居てね」と頼りにしていただいている意味がわかった気がします。非常に魅力的なセミナーでした。ありがとうございました。
- ・カウンセラーの雇用期限等考えてほしいと思えます。
- ・学生支援に直接関わらない部署にありますが、最新の取り組み事例など毎回ご教示いただきありがとうございます。
- ・学生指導やカウンセリングの成功例や失敗例、してはいけない声かけ、指導の具体的リスト（データベース）があると素人にとってとても有益と思えます。
- ・本日も学びの機会として提供いただきありがとうございました。

次ページに続く

- ・大変参考になり勉強になりました。
- ・学生相談についての具体的事例をいろいろお聞かせいただけると今後の学生相談に役立つと思いました。
- ・学生を活用する取り組みがいくつか紹介されましたがそれらに協力してくれる学生の確保の困難さ、不確実さから実行に移せずにいる取り組みがあります。何かの機会にその点の工夫などもご紹介いただけると幸いです。本日はありがとうございました。
- ・教員をめざす学生の中に発達障がいと疑わせる学生がいます。教員になると本人にとっても子ども達にとっても大変なのではないかと思う場合もあるのですが、向いていないとは言えません。発達障がいや生育歴の中で発達課題を積み残してきている学生の進路指導についてのお話しもお聞きしたかったです。→質問した方がいらっしやっただので少しわかりました。ありがとうございました。

5. 次の(1)、(2)について、該当するものに○をつけてください。

(1) a. 千葉大学外の方 18名 b. 千葉大学内の方 25名 (回答なし 2名)

(2) a. 学生 1名 b. 教員 10名 c. 大学職員(図書館職員を除く) 22名 d. 図書館職員 8名  
e. 出版関係 1名 f. その他 2名 (回答なし 1名)

6. セミナーを何で知りましたか?(複数回答あり)

a. Web(アカデミック・リンク・センター) 2名 b. Web(図書館) 1名 c. Web(千葉大学) 3名  
d. 図書館内電子掲示 0 e. ポスター 5名 f. センターからのメール 27名 g. Facebook・Twitter 0  
h. その他 7名 (asagao, 関東地区学生相談研究会、教員会議等) (回答なし 1名)

7. 千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です)

お名前：( ) ご所属：( )  
電子メールアドレス：  申込時に利用したもの  それ以外 ( )

ご協力ありがとうございました。

※13名が新規に継続的な情報提供を希望